

【流域いろいろ】

求む！球磨川流域圏の地域映像

羽鳥隆英^{1)*}

1 熊本県立大学文学部日本語日本文学科 〒862-8502 熊本市東区月出 3-1-100

熊本県立大学文学部日本語日本文学科准教授の羽鳥隆英と申します。専門は日本芸能論（映画・演劇）です。本学がJST（国立研究開発法人科学技術振興機構）から令和3（2021）年より受託した『流域治水を核とした復興を起点とする持続社会』地域共創拠点の研究プロジェクトにおいて、文学部の教員で唯一、研究分担者を拝命しました。その中の研究開発課題の1つである「パートナーシップによる『緑の流域治水』の推進」の内、球磨川流域圏の地域映像を巡る研究教育事業を統括します。熊本2年目の新参ですので、本誌読者の皆様にはお引き回しお願い申し上げます。

「地域映像」とは耳慣れない言葉かも知れませんが、統一的な定義は未整備ですが、特定の地域共同体の歴史を記録した動画像・静画像の総称である点に異論は出ないはずで、21世紀に入り、この地域映像を地域史研究や地域史教育、地域再生事業などに活用する実践が全国の研究教育機関に立ち上りました。筆者自身、熊本県立大学に着任する以前の2015年度に神戸映画資料館、2016～2019年度に新潟大学地域映像アーカイブ研究センターの研究教育事業を分担し、地域映像の持つ無限の可能性に思い至りました。とは言え、地域映像を地域史研究や地域史教育、地域再生事業などに活用するための方法論的な議

論は依然、試行錯誤の水準です。誠に遺憾ですが、一部には地域映像を独善的に搾取する自称「芸術家」も存在するようです。球磨川流域圏の、球磨川流域圏による、球磨川流域圏のための地域映像事業とは如何なる実践か？今回の機会を通じ、模索する所存です。

事業の本格的な開幕に向け、前述の神戸映画資料館・安井喜雄館長に、球磨川流域圏に係る情報を照会した結果、1929年に撮影された球磨川下りの動画像が館蔵資料に含まれるとご教示いただきました。2022年10月23日、神戸映画資料館を訪問し、現物を撮影させていただいたのが添付の画像です(図1)。1929年7月22日に島原、23日に鹿児島、25日に球磨川、29日に別府と九



図1 神戸映画資料館所蔵資料

*Corresponding author: e-mail: hatori@pu-kumamoto.ac.jp

州圏を回遊した観光者の映像日記の一部と推測されますが、詳細は調査中です。今後、許諾が得られれば、デジタル化した動画像の上映会なども実現し得るかも知れません。とは言え、前述の通り、この動画像は観光者が撮影した球磨川流域圏の歴史の一頁、非日常的な体験の記録です。当然、球磨川流域圏に日常を送る生活者とは視点が異なるはずです。映像資料を通じ、地域共同体の歴史に想いを馳せるには、観光者と生活者、双方の多角的な視点が不可欠であるのは論を俟ちません。

今回『不知火海・球磨川流域圏学会誌』の誌面を拝借し、本誌読者の皆様に提供を呼び掛けたいのは、1～数世代前の球磨川流域圏の生活者が撮影した明治・大正・昭和期の地域映像の情報です。動画像・静画像の情報共に大歓迎です。光を当てる角度を工夫すれば、1枚の記念写真が、1編の映像日記が地域史研究や地域史教育、地域再生事業などの貴重な資源になるはずです。羽鳥隆英 (hatori@pu-kumamoto.ac.jp) 宛ご連絡をお待ち申し上げます。

